

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年3月29日

報告者	学科名	看護学科	職名	助教	氏名	井上かおり
研究課題	看護師が認識したCOVID-19による面会制限を受けた入院高齢患者の心理状態と看護					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	井上かおり	看護学科・助教		老年看護学	調査実施・分析・考察
	分担	實金栄	看護学科・教授		老年看護学	調査実施・分析・考察
研究実績の概要	<p>【研究目的】 本研究は、面会制限により他者との関わりが減少した高齢患者に対する心理的支援の示唆を得ることをねらいに、看護師が認識した、COVID-19による面会制限を受けた高齢患者の心理状態とそれに対する看護実践を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【研究方法】 研究対象施設はA県内の医療機関3施設であり、高齢者が長期に療養する病床に勤務する経験年数5年以上の看護師8名を対象に、半構造化面接を実施した。面接では、面会制限により高齢患者の心理状態はどのように変化したと思うか、心理状態が変化した高齢患者に対してどのような看護を提供したか等をテーマとした。分析は、面接の音声データから逐語録を作成し、心理状態および看護実践について、質的帰納的に分析した。なお、本研究は、岡山県立大学倫理審査委員会の承認を得た後に実施した（受付番号：23-11）。</p> <p>【結果】 看護師が認識した長期入院高齢患者の心理状態として、[帰宅願望] [不穏・せん妄] [状態不変] などを含む5カテゴリーが明らかになった（表1）。心理面を支える看護実践として、[つながりの維持・促進] [気分転換の促進] [寄り添い] を含む4カテゴリーが明らかとなった（表2）。</p> <p>表1 看護師が認識した長期入院高齢患者の心理状態</p> <p>帰宅願望 帰宅願望の増強</p> <p>不穏・せん妄 認知症患者の不穏の増強 せん妄の出現</p> <p>孤独感 家族に会えないことによる寂しさ 家族に会えないことによる不安 家族との関係性の悪化を疑う</p> <p>やむを得なさ やむを得ない</p> <p>状態不変 長期入院患者は心理状態が大きく変化しない 認知機能の低下等により面会制限の必要性を理解できない</p> <p>太字はカテゴリー、細字はサブカテゴリーを示す</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>表2 心理状態に対する看護実践</p> <hr/> <p>可能な範囲での面会</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者と家族が顔を合わせることができるよう工夫 状態の悪い患者の面会制限を緩和 面会制限に納得できない患者に短時間の面会実施 <p>つながりの維持・促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族の差し入れの受け入れ 患者と家族間の会話の促進 家族が患者に伝えたいことを伝達 <p>気分転換の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> レクリエーション 身体活動の促進 アロマオイルで手のマッサージ <p>寄り添い</p> <ul style="list-style-type: none"> 傾聴 声掛け 寄り添い 患者が理解できるよう関わる <hr/> <p>太字はカテゴリー、細字はサブカテゴリーを示す</p> <p>【考察】</p> <p>面会制限があっても「状態不変」であると看護師が認識していたことについて、長期入院する高齢患者は日常的に他者との関わりが少ないことや、認知機能の低下等により意思疎通が困難であるために看護師が患者の変化を捉えにくいことが考えられる。看護師は、患者に関心を寄せ、患者の状態の変化を意図的に察知する関わりが求められる。</p>
<p>成果資料目録</p>	